

氏 名	福間 美紀
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第416号
学位授与年月日	平成26年3月17日
審 査 委 員	主査 教授 藤田 委由
	副査 教授 杉本 利嗣
	副査 教授 山口 修平

論文審査の結果の要旨

高齢者の介護予防対策として、日常生活動作が悪化しやすい要支援高齢者への介護予防サービスのあり方が重要な課題となっている。要介護状態となる原因では疾病以外に加齢に伴う虚弱が注目されている。虚弱は、地域高齢者の4～27%の発生率との報告があり、死亡や要介護度への関連が示唆されている。しかし、地域高齢者を対象とした虚弱と死亡や要介護度の関連についての前向き研究は少ない。

申請者は、要支援高齢者と自立高齢者を対象に前向き研究を実施し、虚弱と死亡及び要介護度との関連を検討した。2007年に雲南市の要支援高齢者75人と要支援高齢者と性、年齢をマッチングした自立高齢者75人について性、年齢、要介護認定、疾病（高血圧、心臓病、認知症、骨折、膝関節疾患の現病歴と既往）、生活習慣（身体活動、喫煙、飲酒）、虚弱（転倒のしやすさ、歩行困難、うつ傾向、閉じこもり、低栄養）について疫学情報を収集した。要支援高齢者75人、自立高齢者75人を4年間追跡した結果、要支援高齢者60人、自立高齢者62人の死亡と要介護度の悪化に関する疫学資料を収集した。2項ロジスティック回帰分析により、要介護度の悪化及び死亡に対するオッズ比(OR)を算出した。要支援高齢者は、自立高齢者より、死亡や要介護度の悪化が有意に多かった。要支援高齢者の死亡は75歳以上(OR=20.19)、転倒のしやすさ(OR=4.82)、男(OR=4.57)、身体活動なし(OR=3.34)と有意に関連した。自立高齢者の死亡は喫煙(OR=52.50)、歩行困難(OR=8.24)と有意に関連していた。要支援高齢者における要介護度の悪化は、男(OR=75.45)、低栄養(OR=29.62)と有意に関連していた。高齢者の死亡と要介護度の悪化が、疾病や生活習慣とは独立して、転倒のしやすさ、歩行困難や低栄養のような虚弱と関連していた。

本研究は、介護予防サービス強化に虚弱改善を目標とした対策が必要なことを明らかにした。介護予防対策に寄与する意義ある研究として、学位授与に値すると判断した。